

宿泊型防災イベントのススメ

～地域連携による防災プログラムのご紹介～

来るべき首都直下地震に備え、防災訓練の意識が各地で高まっています。しかし、「毎回同じような内容のため、いつもの参加者しか集まらない」、「一過性の催しになってしまい、地域防災力の向上に繋がりにくい」など、各地で同様の課題があるのではないのでしょうか。

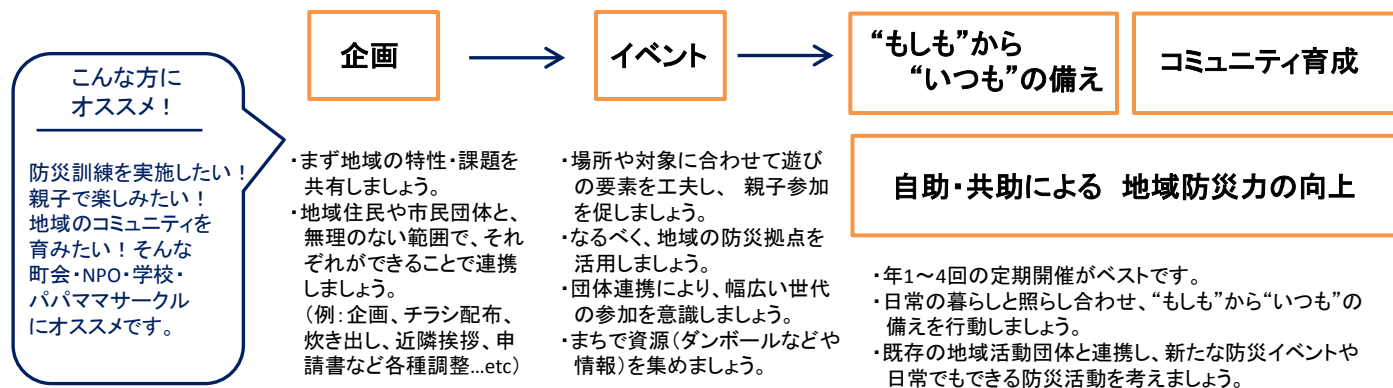
その課題解決の一つの方法として、地域連携による**宿泊型防災イベント**があります。寝食やトイレを参加者が共有することで、より**リアルな避難体験**に即した防災の技術・知恵の習得につながりやすく、また実施までのプロセスにより**地域コミュニティの育成**にもつながります。

内容を工夫することで、これまで参加率の低かった親子や家族三世代の参加を増やすことができます。



これからの防災訓練には、「**地域連携による宿泊型防災イベント**」を開催してみませんか？

■ 実施フロー



■ コンテンツ例

食べる



避難所生活では、器具や食器が揃わない中で食事をする必要があります。地域の防災備品の活用、ジッパー付き保存用ビニール袋やアルミ缶を用いた炊飯、火起こし、紙食器づくりや非常食シェアなどサバイバルクッキングのスキルや知恵を学びます。

寝る



避難所生活の基本となる寝床の確保について、実際の避難所風景を見ながら、話し合い、動線や高齢者・子供の場所を意識しながら、身の回りの物で工夫してつくってみます。また、防寒・防暑のスキル、ポイントを学びます。

トイレ



地震後、特に困るものの一つがトイレです。断水が起きた想定で、身の周りのものを用いたトイレづくりを行います。また、参加者でルールを決め、実際に使用し1泊を過ごすことで、簡易なトイレ作りのスキル、避難所運営のポイントなどを学びます。

その他



その他、いざという時のための毛布タンカづくりや、遊びながら身の守り方を覚える防災ジャンケン、おんぶとだっこによる避難方法など、様々なシチュエーションに活用できるスキルや知恵を学びます。

■ 体験談

- ・つくったトイレ・寝床をリアルに使うのは宿泊だからこそ。防災を肌感覚で学べた。
- ・教わった防災遊びなら、日頃から家族で一緒にやってみようと思えた。
- ・企画を通して地域の人とつながれた。このつながりが、震災時とても重要だと思う。